

はじめに

1. 背景と目的

東京大学の計画



基に

本郷キャンパス活性化への取り組み

キャンパスエリア活性化に向けた基本構想

地域住民の活動をキャンパス内に取り込む



キャンパス内の活動を地域に展開していく



環境整備・本郷キャンパス周辺のまちづくりや活動の進展

文京区の計画

文京区都市マスタープランにおける当地区の位置づけ



○大規模敷地における機能更新等にあたっては、既存のオープンスペースやみどり等が有する機能の維持・向上を誘導し、周辺地区と調和した良好な都市環境を形成する

○良好な市街地環境を形成するため敷地内に緑、広場、通路などの設置等も考慮して高さを個別に検討する必要がある

本郷キャンパスで求められること

① キャンパス空間の一層の有効利用

② 学内資源の維持・保全

③ 避難場所としての広場・通路の確保

④ 地域貢献

区では新たにハードを主とする基本方針の策定を目指している

2. 対象地区



基本方針・目標

● 基本方針

歴史性を有する建物や豊かな屋外環境が継承されつつ、世界最先端を行く研究・教育・医療環境の発展とともに、地域に開かれた魅力ある空間の創出による、本郷キャンパス及び周辺地域の活性化を目指す

● 目標

① 最先端の教育研究・医療環境の発展・推進を実現する

② 歴史・文化やみどりなど、蓄積された資産を継承する

③ 避難場所としての機能を確保する

④ 誰もが訪れやすい、地域に開かれたキャンパス空間を実現する

⑤ 資産を生かした脱炭素社会の実現を目指す

● 現状の整理

土地利用

- 本郷キャンパス内の建物は、築 50 年を超える建物が過半を占めている
- 本郷キャンパスの敷地内には大講堂・赤門等の歴史的・文化的資源や育徳園・懷徳館庭園等の緑地があり、それらを保全しつつ機能更新するためには、合理的かつ適切な土地利用が必要となる

など...

みどり・景観・歴史

- 大学の研究機能や地域のまちづくり活動等が相互に連携できる空間確保が求められている
- 大学周辺の低層住宅地に対しては、景観や住環境への配慮が必要とされている
- 歴史的・文化的資源の景観への配慮のため、その保全と景観的魅力を生かす空間形成を図ることが求められている

など...

安全・安心

- 都の避難場所、区の緊急避難場所に指定されており、避難場所としての空間や機能等の確保が求められており、避難所に関する災害協定を区と締結する
- 災害時における帰宅困難者等への対応に向けて、滞留空間の確保が求められている

など...

魅力づくり

- 大学と地域の更なる交流・連携に向けた取組みを進めている
- 教育施設や病院は、情報や人材、施設などを生かし、地域活動の支援や学習の場の提供を進めている

など...

脱炭素

- 省エネルギー対策として設備機器の高効率化や学内の照明の LED 化を推進する
- 建物の機能更新に合わせた、省エネルギー設備や再生可能エネルギーの活用等によるエネルギー負荷の低減が求められている

など...

部門別方針

1. 土地利用の方針 — 土地利用の区分・建物の高さ —

土地利用の大きな区分として、教育研究・医療機能を担う「教育研究・医療エリア」、緑地等のみどりを保全する「歴史的緑地保全エリア」を位置づける。

● 教育研究・医療エリア

<土地利用の区分>

老朽建物の更新を行うとともに、歴史的建造物のファサード（建物の外観）を保全しつつ、施設の規模や機能の拡充を図る。

<建物の高さ>

エリア内にある既存建物の最高高さ（60m程度）を上限とするが、外周部においては、隣接市街地の高度地区の高さ制限に合わせ、適切に機能の更新を図る。



教育研究・医療エリア



歴史保全ゾーン



高層建物集積ゾーン



歴史的緑地保全エリア

○ 歴史保全ゾーン

<土地利用の区分>

歴史的建造物の維持・保全を行い地区全体の質の向上に資する空間とする。

<建物の高さ>

歴史的建造物の維持・保全を行うため、ゾーン内の既存建物を上限とした高さ（46m程度）に抑制する。

○ 高層建物集積ゾーン

<土地利用の区分>

建物の建築にあたっては、周辺市街地への影響が少ない敷地南側に配置する。

<建物の高さ>

施設の規模や機能の拡充を行うため、高さの最高限度を現在の入院棟と同程度の高さ（85m程度）とし、機能集積を図る。

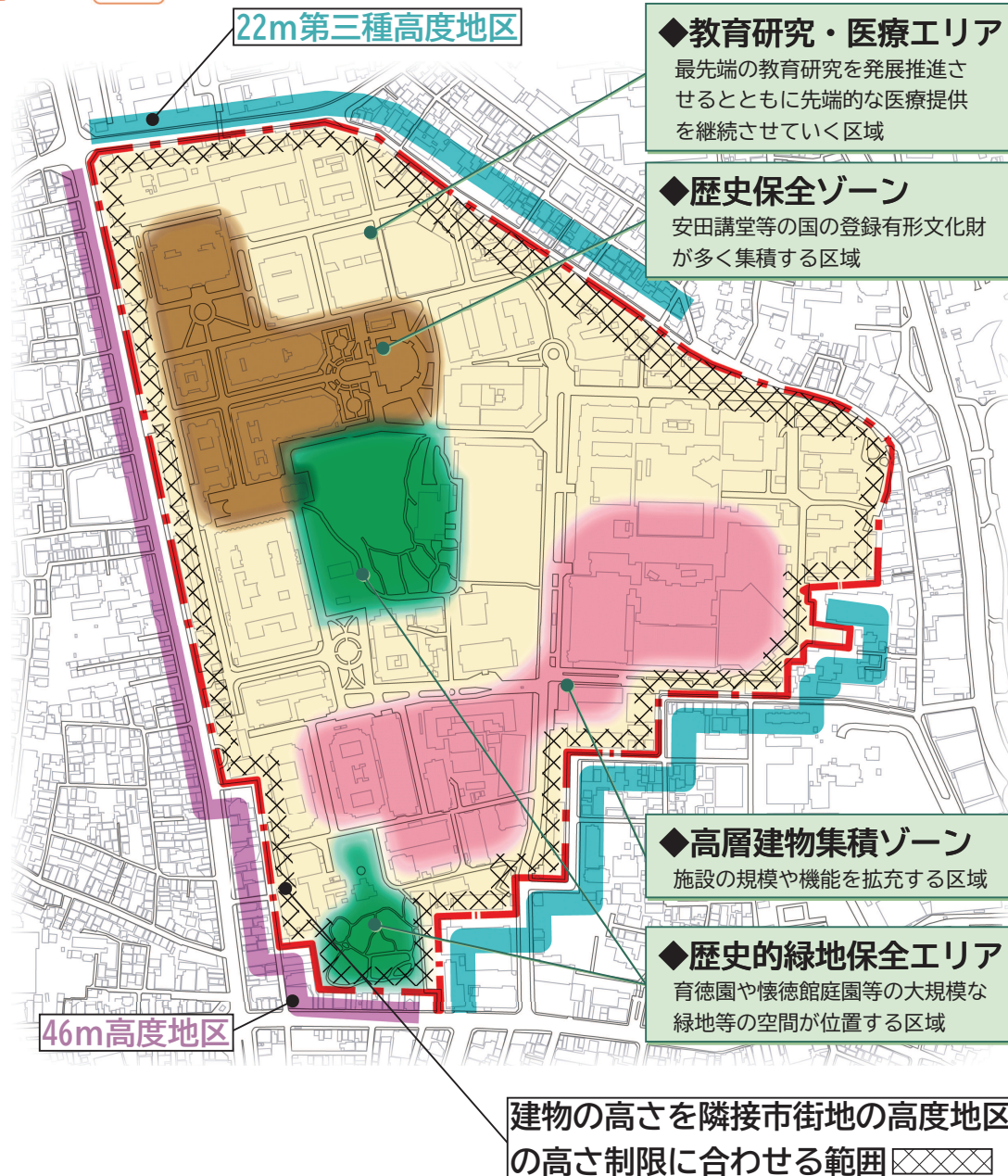
● 歴史的緑地保全エリア

<土地利用の区分>

みどりの空間の環境と景観を保全していくとともに、地域に開かれた魅力ある屋外空間とする。

<建物の高さ>

みどりを保全するとともに、景観に配慮した建物の高さに抑制する。



部門別方針

1. 土地利用の方針 — 地区基盤の方針 —



当地区における教育・研究機能に係る土地利用を支える「通路」「広場」を地区基盤として位置づけ、通行・滞留機能を確保するとともに良好な通路・広場空間を保全するため、それぞれに方針を定める。

● 通路

<通路 A> ■■■■■

一般車両を含むバスやタクシーなどの**通行機能を確保**するとともに、**沿道における安全で快適な歩行者空間を保全**する。



<通路 B> ●●●●●

歩行者の安全性が担保された**車両と共存する通路空間を保全**するとともに、地域と大学を結ぶ**散策路**として**快適な歩行者空間を確保**する。



<通路 C> ●●●●●

歩行者優先の通路であることから、歩行者の安全性が担保された**快適な歩行者空間を保全**するとともに、**学内の歴史・文化的資源等**へつながる**通路**として、**居心地がよい歩行者空間を確保**する。



● 広場

当地区における憩いや交流の場であるとともに、地域住民との交流の場でもある。

良好な広場空間を保全するとともに、**地域に開かれた魅力ある屋外空間として開放**する。



通路 A



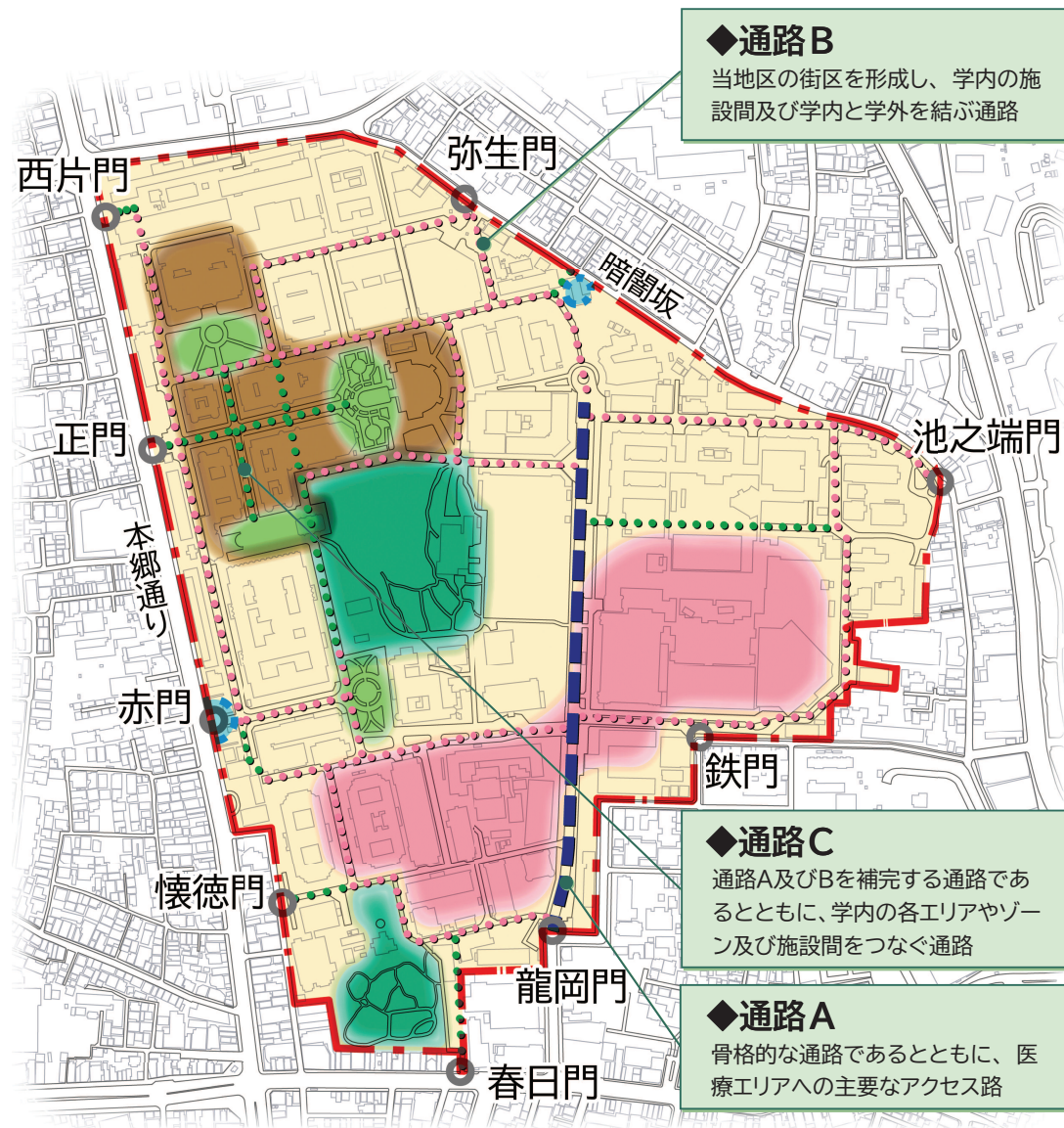
通路 B



通路 C



総合図書館前 広場



部門別方針

2. みどり・水・景観の方針



- 当地区内の緑地や広場については、保全を図るとともに地域の憩いの場などにも活用できる空間として開放する。
- キャンパス外部から見えるみどりを増加させることにより、建物の圧迫感に配慮するとともに、緑化や透視可能な塀等により、良好な景観の形成に努める。
- 建替えや改修の際は、現在のキャンパス景観に調和し、かつ、周辺環境に十分に配慮する。
- 高層の建物を建築する際は、建物周辺に広場等の空間を確保するよう努める。
- 施設整備を実施するにあたっては、脱炭素社会に貢献するよう新たな植樹や既存樹木の更新など、みどりの適切な配置によるキャンパス内の緑化を図り、その維持管理に努める。
- 文化的・景観的にも当地区を特徴づける資源である三四郎池周辺及び懐徳館庭園周辺や大講堂周辺については歴史的空間の風致の維持に努める。
- 大講堂等の歴史的建造物が多く集積する区域は、当地区全体を象徴するゾーンであり、その景観の維持に努めるとともに、当地区全体の質の向上に資する空間とする。



法学部アーケード
【歴史的建造物の保全及び風致の維持】



大講堂（安田講堂）
【歴史的建造物の保全及び風致の維持】



正門前銀杏並木
【みどり景観の状態維持】



赤門
【歴史的建造物の保全及び風致の維持】



本郷通り
【みどり景観の状態維持】



育徳園（三四郎池）
【みどり・水・景観の状態維持】



凡例

歴史保全ゾーン

緑地

広場

みどり景観の状態維持（本郷通り沿い）

広場空間等の確保（位置・規模未定）

外周部の緑化

国重要文化財

国登録有形文化財

運動場

部門別方針

3. 防災の方針



- 右図に示す歩行者や自動車の通行に資する経路を維持・保全する。また、これらの経路は、災害時には病院地区を除き、**キャンパス内に逃げ込む場合の避難路や防災活動空間として機能**する。
- 避難場所としての機能と安全性を確保するため、「擁壁等の適切な維持管理」や「**避難空間となる広場・運動場・緑地の維持及び新たな広場空間等の確保**」に努めるとともに、「**避難経路としての安全性の確保**」や「**新たな出入口の設置とあわせた、避難経路の確保**」を行う。



出典：東京大学HP
安田講堂横 避難訓練の様子



出典：東京大学HP
全学災害対策本部の様子



通路A



通路B



通路C



赤門



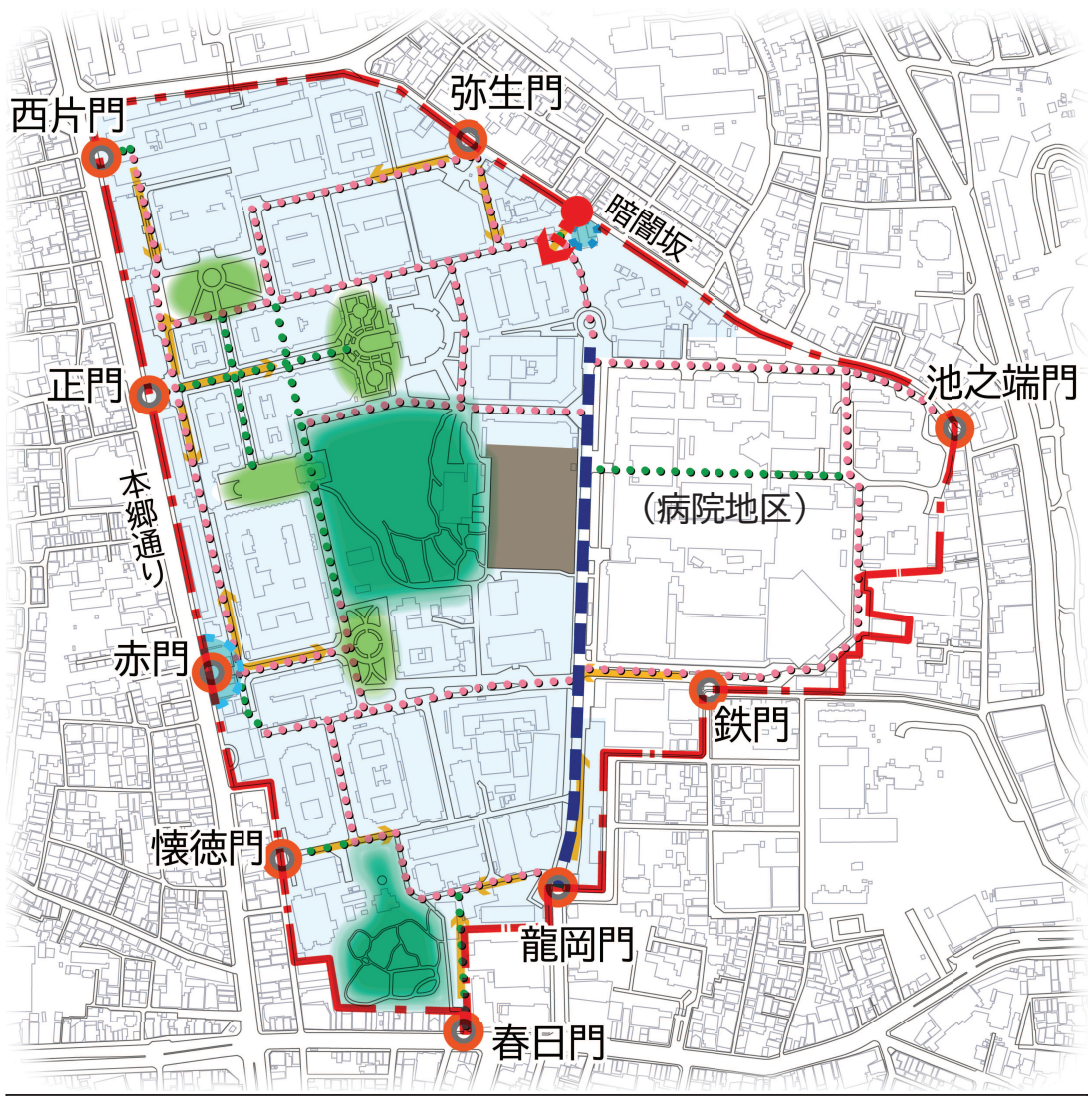
総合図書館前 広場



工学部1号館前 広場



安田講堂前 広場



凡例					
	避難場所の範囲		運動場		外部からの避難経路
	緑地		広場空間等の確保（位置・規模未定）		通路 A
	広場		新たな出入口の設置（予定） と避難経路の確保		通路 B
					通路 C

部門別方針

4. 魅力づくりの方針



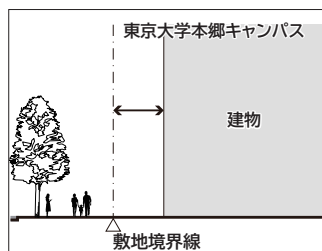
- 隣接市街地と面する部分については、隣接市街地側の高度地区の高さ制限に高さを合わせ、住環境に配慮するとともに、敷地又は道路境界線から建物の後退距離を定めることにより、隣接市街地への圧迫感を軽減する。
- 暗闇坂側においては、新たな出入口を設置する。
- 既存出入口等を含め、セキュリティを考慮した時間帯で開くことにより日常的に利用できる安全で快適な歩行空間を提供する。
- 隣接及び周辺市街地との交流の場となる施設や広場空間等については、暗闇坂側に新設される出入口周辺や赤門周辺に設置する予定である。
- 産学連携機能を充実させることにより、最先端の研究活動を民間と共同で行い、スタートアップ企業の育成などイノベーションを実現する。
- 学内施設を開放することにより、大学が定めたキャンパス基本構想で掲げる「地域住民の活動をキャンパス内に引き込む」、「キャンパス内の活動を地域に展開していく」の実現を目指す。



安田講堂前 広場



通路C

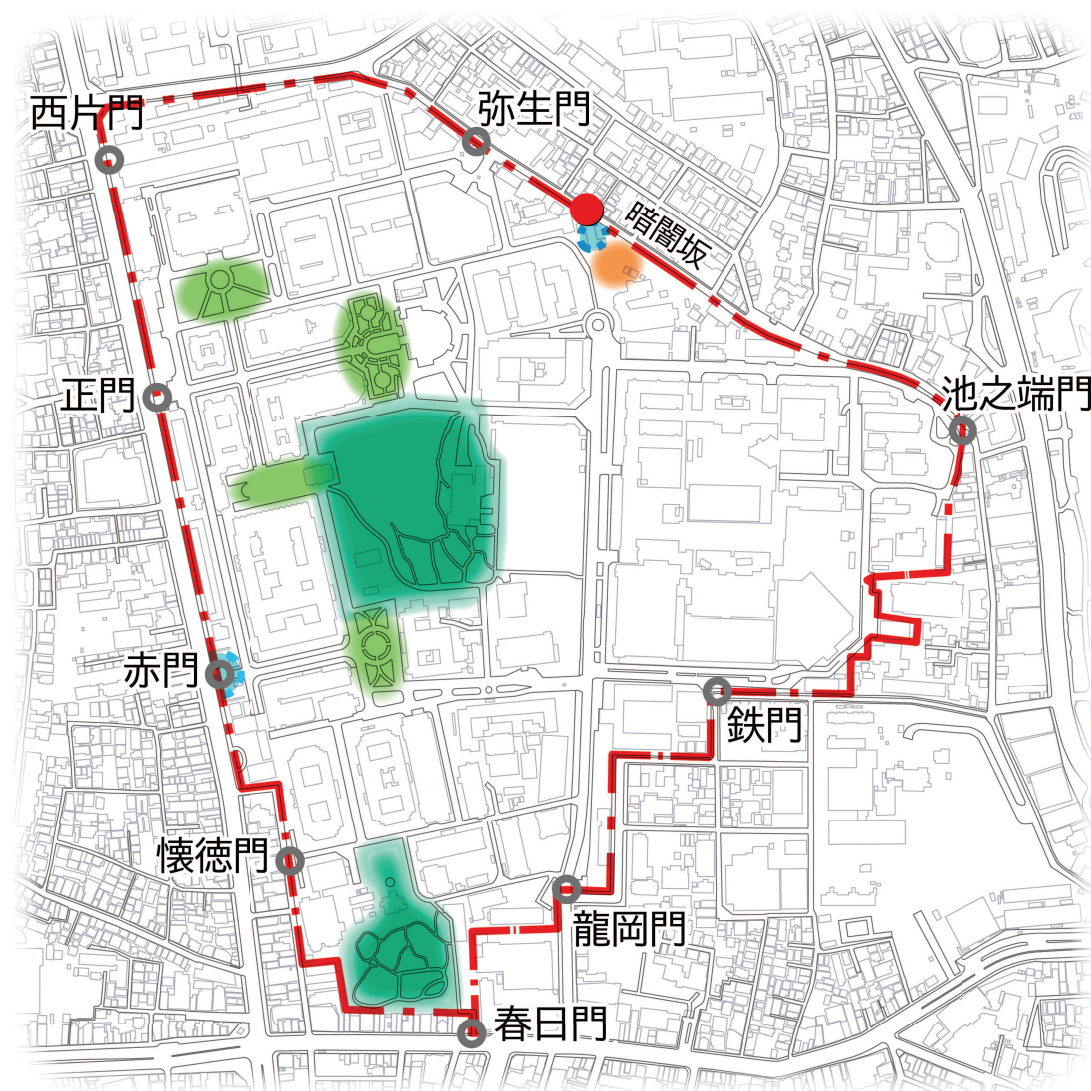


壁面後退の図 (イメージ)

5. 脱炭素化の方針



- 本郷キャンパス内の建物を整理し、改修や改築をする際は、エネルギー負荷の低減に取り組む。
- 省エネルギー対策として空調設備の効率化を推進し、太陽光発電設備の導入等を検討することにより、二酸化炭素排出量を削減する。
- 今ある緑地や植栽を適切に維持管理することで、みどりの保全と創出に努め、脱炭素化社会の推進に貢献する。



凡例

- 新たな出入口の設置 (予定)
- 交流施設 (予定)
- 広場空間等の確保 (位置・規模未定)

- 緑地
- 広場